

千葉商科大学経済研究所 中小企業研究・支援機構 中小企業経営支援セミナー 開催報告

日時：2022年7月30日（土）14：00～16：30
 開催方法：オンライン開催
 開催テーマ：「中小企業政策・経営支援体制と
 中小企業経営の現状」

講演題目・講師
 第1部「新しい中小企業支援施策について
 ～中小企業等の施策活用事例とともに～」
 勝本 光久 氏
 （経済産業省 関東経済産業局 産業部長）
 第2部「創造的な仕事で世界を目指す
 ～オリンピックのモノづくり～」
 三浦 慎 氏
 （株式会社三英 代表取締役社長）

1 講師プロフィール

第1部の講師である勝本光久氏は、1986年4月に通商産業省東京通商産業局に入局され、以後、関東経済産業局産業部製造産業課長、関東経済産業局国際課長、関東経済産業局総務企画課企画課長、武陽ガス株式会社営業課長、関東経済産業局総務企画部総務課長、中小企業庁長官官房広報相談室長を務められ、現在、経済産業省関東経済産業局産業部長を務められている。

第2部の講師である三浦慎氏は、1985年に専修大学経営学部を卒業後、同年、株式会社三英に入社され、2001年、同社の代表取締役に就任された。さらに、社会活動として、一般社団法人日本スポーツ用品工業協会理事、一般社団法人日本公園施設業協会副会長、千葉県中小企業振興に向けた研究会委員などを務められている。

2 講演内容

第1部「新しい中小企業支援施策について ～中小企業等の施策活用事例とともに～」

第1部の講演では、勝本氏から大きく2つのテーマで講演があった。第1が令和3年度補正予算・令和4年度当初予算に係る各種事業の紹介、第2が施策活用事例・経営支援サイトの紹介である。

従前から中小企業・小規模事業者は3つの大きな構造変化、すなわち①経営者の高齢化、②生産性の向上、③人口減少による弱い内需と過疎化に直面しているといううえで、現在の日本経済は新型コロナウイルス感染症の影響下で経済社会の変化に対応すべく、これらの3つの構造変化に加え、事業再構築、デジタル化の推進を図る必要があるとした。

このような課題認識をもとに編成された中小企業関連予算について、勝本氏は各事業の概要とポイント、事業イメージについて事例を交えながら説明された。

また、補助金を活用する際には、施策の目的を理解したうえで、自社の強みを伸ばすまたは自社の課題を克服するなど目的意識を持った補助金の活用が必要であることを強調された。そのために事前に自社の強みや課題の分析が必須であるとし、場合によっては支援機関の力を借りることが必要であるとした。

施策活用事例の紹介では、戦略的基盤技術高度化支援事業、生産性革命推進事業、事業再構築補助金等に採択された成果事例について具体的な企業をとりあげて説明された。こうした補助金の活用には情報収集が不可欠として「ミラサポplus」などの中小企業関連サイトの紹介もされた。

「事業再構築指針について」説明スライド

事業再構築指針について(事業再構築の手引きより)

- 「事業再構築指針」(以下「指針」)は、事業再構築補助金の支援の対象を明確化するため、「事業再構築」の定義等について、明らかにしたものです。
- 「事業再構築」とは、「新分野展開」、「事業転換」、「業種転換」、「業態転換」又は「事業再編」の5つを指し、本事業に申請するためには、これら5つのうち、いずれかの類型に該当する事業計画を認定支援機関と策定することが必要となります。
- また、指針では、これに加え、中小企業卒業校及び中堅企業グローバルV字回復校の要件についても定めています。

事業再構築指針

- 事業再構築の定義
 - 新分野展開 …新たな製品等で新たな市場に進出する
 - 事業転換 …主な「事業」を転換する
 - 業種転換 …主な「業種」を転換する
 - 業態転換 …製造方法等を転換する
 - 事業再編 …事業再編を通じて新分野展開、事業転換、業種転換又は業態転換のいずれかを行う
- 中小企業卒業校 …資本金又は従業員を増やし、中小企業を卒業して、中堅企業・大企業に成長することを目指す
- 中堅企業グローバルV字回復校 …中堅企業が、コロナで大きな影響を受けたが、海外展開をして、業績のV字回復を目指す

(出所) 「新しい中小企業支援施策について
～中小企業等の施策活用事例とともに～」配布資料

第2部「創造的な仕事で世界を目指す ～オリンピックのモノづくり～」

第2部の講演では、三浦氏から「創造的な仕事で世界を目指す～オリンピックのモノづくり～」と題して、リオ・デ・ジャネイロオリンピックと東京オリンピックのサプライヤーとして、モノづくりの考え方や企業理念について講演された。

株式会社三英は、1962年に設立された。三英は、千葉県流山市に本社を置き、従業員数95名の中小企業である。事業内容は卓球台、スポーツ用具、健康遊具、公園等で設置されている遊具などの製造販売である。

三英の卓球台は、世界で高く評価されており、

1992年のバルセロナオリンピック、2016年のリオ・デ・ジャネイロオリンピック、そして2020東京オリンピックでも公式卓球台に選定された。

本講演では、企業の沿革や卓球の歴史を紹介されたあと、国内シェアが60%を占めるようになった2007年、国内市場の拡大よりも海外市場に進出した方が「夢がある」として、オリンピックでの卓球台採用を目標に掲げて以降の経営やモノづくりの考え方を中心に講演された。

オリンピック公式用具スポンサーに選ばれるためには、①企業の安定性、②品質、③過去の大会使用実績、④企画力、⑤国際的な交渉力の5つが必要であるとされた。同社はもともと「反らない天板」などの高度な製造技術をもっていた。それに加え、オリンピックで採用されるために、企画力の強化を図った。例えば、リオ・デ・ジャネイロオリンピックの時には、脚部にデザイン性のある卓球台の開発をはじめ、卓球台の色は開催国のブラジルをイメージさせつつ、「和」のテイストも取り込んだ新色の天板を投入するなど、新たなチャレンジに取り組んだ。

三浦氏いわく、こうした世界レベルでの仕事をするには、創造的な仕事をする意識を持つことが大切であるとされた。そのためには、何より「できる」と信じ続けるスピリットを持ち、そして前例や規範がないことを自主的にやることが重要であるとした。

「パラスポーツ向けの卓球台」



(出所)「創造的な仕事で世界を目指す～オリンピックのモノづくり～」投影スライド

「開発途上国支援と障がい者支援」



(出所)「創造的な仕事で世界を目指す～オリンピックのモノづくり～」投影スライド

まとめとして、オリンピックにおけるモノづくりを経験して、第1には「技術は嘘をつかない」ということであり、技術の蓄積の重要性を再認識したこと、第2には製品は信念の昇華であり、モノづくりにはストーリーが必要であること、第3にはビジネスであるので、作ったモノを認めてもらう仕掛けが必要であるということ強調された。

その他にも、同社の卓球を通じた発展途上国支援や障がい者支援、健常者がパラスポーツの卓球選手の競技感覚を体験できる新しい形の卓球台の開発などの事例が紹介された。

3 所感等

第1部では、多岐にわたる中小企業関連事業と補助金制度について丁寧な説明があり、また補助金制度の活用方法のポイントもご教示いただいた。時代の変化に即した新事業創造や事業転換、海外進出など、中小企業の長期的・持続的な成長の第一歩として、補助金を有効に活用することが重要であることを実感する内容であった。

第2部では、世界で戦う中小企業の競争力の源泉は、技術力とともに製品に対する思想にあるという点が印象に残った。特に卓球台といった規格に沿ったものを製造する中で、三英独自の設計思想を具体的なデザインに落とし込み、それを製品化するプロセスや、モノづくりにおける制限された中での創造性の生み出し方は、グローバルな展開をする中小企業の事例として示唆に富む内容であった。また、パラスポーツで使用する卓球台は、ユーザーとのコミュニケーションの中から新たな創造性が発揮され、これまでに見たことのないものを生み出している点は大変興味深かった。

参加者からのアンケートでは、「第一部では、多岐に渡る補助金制度についてポイントを絞りご説明いただけ、今後の活用の幅が拡がりました。第二部では、中小企業が世界を目指し、そしてそれを実現する事ができるという無限の可能性を改めて認識させていただけたことと、さらに新たな課題を見出し未来に向けて向上していこうというお姿に感動しました。」との感想や「事例発表で、流山市の三浦（株三英）代表取締役によるオリンピックに卓球台を納入するまでの試行錯誤、企業理念、社会貢献等を伺い、中小企業のオンリーワン技術と共にそれを具現していく指導力と会社の組織力に感動しました。」などの感想が寄せられた。

(報告：中小企業研究支援機構 小谷健一郎)